

先月21日に行われた関西青年部主催の「関西青年未来塾」では、「パパキッズ・フォーラム」と題し、大阪教育大学の小崎

恭弘准教授と、看護師の古山陽一さんが講演を行いました。関西青年部では、父と子が触れ合う「パパキッズ・キャラバン」を

定期的に行い、「パパをもっと楽しむ」ための機会を提供しています。本欄では講演内容を抜粋して紹介します。

教育 Education

関西青年未来塾で子育て専門家が講演

父親の育児にアドバイス

「怖い役割」を担う

パパの役割は何でしょう？ 昔は「地震、火事、おやし」といわれたほど、パパは「怖い役割」を担ってきまし



大阪教育大学

た。この中で自分が怖いパパだと思っている人はいますか？ 少ないでしょう。でも、ママは求めます。父親なのだから、「怒るべき時には、きちん」と怒って」と。「こ

小崎 恭弘 准教授

られる……」（笑い）と子どもを怒ってみても、上手に叱れない。最近はどうしたタイプのパパが多い気がします。パパは子育てを学ぶ機会がほとんどありません。ママと比べてパパ同士の横のつながりも弱い。皆さんは、「パパキッズ・キャラバン」と名付けて、パパ同士の交流も促しながら、子育てを楽しむための機会を持っています。パパ同士の交流も促しながら、子育てを楽しむための機会を持っています。パパ同士の交流も促しながら、子育てを楽しむための機会を持っています。

共感を

子育てがしんどいと思う時は、子どもの成長をイメージできず、ずっとこの状況が続くと感じている時です。でも、そんなことはありません。子育ては必ず終わる。そのゴールを意識できると、だいぶ違います。子育ての最終目標は「子離れ、親離れ」。そのために何をやるか、夫婦で話し合



パパの横のつながりが 家族の輪を広げる

夫婦の知識の差を埋めたい

親を対象にした育児講座が自治体などの主催で開催されています。ただ、



NPO団体「パパの育児休業支援センター」

古山 陽一 代表

多くの場合、講師は女性。父親は同性の専門職から子育てを学ぶ機会が少ない。母親と子育てに関する知識・技術に差が生まれ、母親のストレス

の二因にもなっています。父親支援には、同性の専門職からのアドバイスが必要と考え、父親教室を実施してきました。父親の育児取得の支援もしています。育児・介護休業法により、男女の区別なく育児を取得する権利は保障されていますが、実際の取得率は男女間でかなりの差があります。2014年度で見ると、女性の取得が86・6%

に対して、男性の取得が2・3%です。背景に何



父親教室

があるのでしょうか。男性自身が育児に参加したいと思う一方で、職場の現実があり、育児取得には困難を抱えているのが実態だと思えます。最近、男性の育児参加

に理解のある経営者や上司が「イクボス」とも呼ばれるようになりました。部下の育児取得を促すなど、仕事と育児をしやすい環境の整備に努める人のことです。イクボスと呼ばれる風潮は、男性の子育て支援の面で一歩前進でしたが、イクボスでも、男性の部下に対しては育児を1週間取らせたら十分と考えている人もいます。本来、育児は性別にかかわらず、要件を満たし

た労働者が1年間、自己決定に基づいて取得できる制度です。今後は、女性へのマタニティ・ハラスメント対策と同様に、男性の育児に参画する権利を擁護するといった観点からの対応が必要ではないでしょうか。

司が「イクボス」とも呼ばれるようになりました。部下の育児取得を促すなど、仕事と育児をしやすい環境の整備に努める人のことです。イクボスと呼ばれる風潮は、男性の子育て支援の面で一歩前進でしたが、イクボスでも、男性の部下に対しては育児を1週間取らせたら十分と考えている人もいます。本来、育児は性別にかかわらず、要件を満たし

ふるやま・よういち 1979年、福岡県生まれ。看護師の仲間からNPO団体「パパの育児休業支援センター」を設立。父親教室の実施、育児休業取得を希望する父親の支援などを行い、各地で講演も行う。

きです。いつも同じ絵本を読み聞かせてくれると、安心します。何度か同じ本の読み聞かせを要求するのそのため。同じ内容がいいのです。逆に自分が思っているものと、違うものが出てくるか。ママに対する言葉掛けや気遣いです。夫婦は一番近い存在なのに、分り合えていないことがあります。家族の一体感を得るには、子育てへの共感が不可欠。子どものけがや病気、トラブルなどでママはいつも気を張っています。パパには、ママのしんどさに共感できてこそ家族の一体感が生まれると知ってほしいと思います。

このことは普段の関わりでも言えます。例えば、子どもの前で本を頭の上にのせて見せてあげてください。不安定なので、本はやがて頭から落ちてしまつてしまう。その姿に子どもは大驚びです。なぜでしょうか。子どもは「落ちる、落ちる」と

思っている。実際に落ちたので、「世界が自分の思うように動く」ように感じ安心するからです。多くのママがパパに「一番してほしい」と望むことは何だか思いますが、ママに対する言葉掛けや気遣いです。夫婦は一番近い存在なのに、分り合えていないことがあります。家族の一体感を得るには、子育てへの共感が不可欠。子どものけがや病気、トラブルなどでママはいつも気を張っています。パパには、ママのしんどさに共感できてこそ家族の一体感が生まれると知ってほしいと思います。